

2016 情熱疾走 中国総体  
「美しく咲け 君の笑顔と 努力の華」

全国高等学校体育連盟テニス専門部  
常任委員 内藤 美明

〈 はじめに 〉

2016 情熱疾走・中国総体は、島根県松江市宮庭球場と安来運動公園庭球場の2会場で開催されました。今年で106回を迎える全国高等学校テニス選手権大会ですが、島根県で初めての開催となりました。そして、松江市宮庭球場は、現在、日本のテニス界をリードしている錦織圭選手が子どもの頃、ホームグラウンドとして練習していたコートです。史上初の島根県開催、錦織圭選手を育てたコートでの開催、「島根から日本一と世界一？」を目指した選手達の熱い戦いが、猛暑の中で行われました。

〈 開会式 〉

松江市総合体育館で行われた開会式では、前年度優勝旗・優勝杯の返還の後、「『2016 情熱疾走、中国総体、美しく咲け、君の笑顔と努力の華』このスローガンを胸に私達選手一同は、ここ神話の国島根でインターハイの舞台に立ち、大好きなテニスができる、大きな喜びを感じています。今、会場には、全国の代表選手が一堂に会しています。今年4月の熊本震災の被災地からも、さまざまな思いを胸に、厳しい予選を勝ち抜き、駆けつけてくれた選手もいます。私達選手一同は、島根県出身のプロテニスプレーヤー、錦織圭選手のように、テニスを通じて、多くの人々に感動を与え、最後まであきらめないことの大切さを伝えます。そして、高校生らしく、熱く、爽やかに、正々堂々とプレーすることを誓います。」と開星高等学校、井上勇氣・大和里緒選手が選手宣誓を行いました。

そして、島根県立安来高等学校、木戸捷太君と山尾緋さんの出雲の方言での歓迎の言葉は、とても印象に残りました。

最後にとんでもないサプライズが、「出場される選手の皆さん、おめでとうございます。そして松江に集まってきて、ありがとうございます。この大会に出場するために、皆さんが積み重ねてきた日頃の努力と精進に敬意を表すとともに、僕のふるさとである松江に集まって熱戦を繰り広げてくれることをうれしく思います。僕も日の丸を背負って、オリンピックに行きますが、皆さんも、母校や地元を背負ってこの大会に臨んでおられると思います。それをプレッシャーと感じるのではなく、家族や学校や近所や地元の人たちが応援してくれていることに感謝して、全力で戦ってください。皆さんの健闘を期待しています。」という錦織圭選手からのメッセージを頂き、参加校の翌日からの試合にかける思いを後押ししました。

式の後に行われた、開星高等学校コーラス部の合唱と松江市立女子高等学校ダンス部による演技も会場の雰囲気を大いに盛り上げました。

〈 団体戦 〉



男子ベスト8は、次の学校。

湘南工科（神奈川）、岡山理大附（岡山）、清風（大阪）、名古屋（愛知）、相生学院（兵庫）、大成（東京）、四日市工（三重）、柳川（福岡）。大混戦の中、準決勝に駒を進めたのは、第1シードの湘南工科に勝利した地元中国地区の岡山理大附。2回戦で第4シードの秀明八千代（千葉）に勝利して勢いに乗る名古屋。そしてシード校の相生学院、柳川の4校。

決勝は、勢いに乗る名古屋対相生学院。相生学院は準決勝までシングルス No.1 を務めてきた大島立暉③に代えて、阿多竜也①を起用。3面展開で行われた試合。シングルス No.1 の試合はシーソーゲームの展開でしたが、相生学院のダブルスとシングルス No.2 の試合は名古屋を圧倒して、ダブルスは6 3、6 2、シングルス No.2 は6 1、6 2 で優勝が決定しました。



女子ベスト8は、次の学校。

野田学園（山口）、京都外大西（京都）、柳川（福岡）、大商学園（大阪）、四日市商（三重）、早稲田実業（東京）、松商学園（長野）、沖縄尚学（沖縄）。シードダウンが相次ぐ大混戦の中、ベスト4に駒を進めたのは、第1シード、地元中国地区の野田学園。



第5シード柳川。第6シード早稲田実業。そして、2回戦で第2シード椋山女学園（愛知）に勝利して勢いに乗る沖縄尚学の4校。

決勝は春・夏連覇を目指す、野田学園と勢いに乗る、沖縄尚学の戦いになりました。3面展開で行われた試合は、シングルス No.1 下地（沖縄尚学）が6 1、6 2で山藤（野田学園）に勝利しましたが、シングルス No.2 金山（野田学園）が6 0、6 2で足立（沖縄尚学）に勝利して勝負の行方はダブルスにかかりました。ファーストセット7 6（8 6）で衛藤・岩本（野田学園）、セカンドセットは6 3で我那覇・前田（沖縄尚学）が互いに取り合いファイナルセットへ。ファイナルセットに入って、衛藤・岩本の攻撃的なプレーが冴え渡り6 1。野田学園の初優勝となりました。



#### 〈 個人戦・シングルス 〉

男子ベスト8は、次の選手。丸数字は学年。

今村昌倫③（大阪・清風）、田中優之介③（埼玉・秀明英光）、大島立暉③（兵庫・相生学院）、山尾玲貴③（福岡・柳川）、野口莉央③（神奈川・湘南工科）、藤井颯大③（京都・同志社国際）、横尾淳司③（大分・大分舞鶴）、武藤洗希②（東京・大成）。

関東3名、近畿3名、九州2名。そして、ベスト4に関東2名、九州2名。



決勝は、第3シードの野口莉央③と準々決勝で第1シードの今村昌倫③に、準決勝で第4シードの山尾玲貴③に勝利した田中優之介③の関東対決になりました。ファーストセットは互いに譲らず、激しいラリーの応酬で試合の流れがどちらに行くのか……。64で野口莉央が取り、セカンドセットへ。セカンドセットは、野口莉央が田中優之介のサービスゲームのブレイクに成功し、試合の流れは一気に野口莉央へ。セカンドセットは、61で野口莉央が取り、優勝が決まりました。

女子ベスト8は、次の選手。

松田美咲③（埼玉・浦和学院）、吉岡希紗①（三重・四日市商）、宮原三奈②（福岡・柳川）、下地奈緒③（沖縄・沖縄尚学）、川岸七菜①（神奈川・法政二）、細木咲良②（島根・開星）、末野聡子②（兵庫・芦屋学園）、清水映里③（埼玉・山村学園）。

関東3名、九州2名、東海1名、近畿1名、中国1名。そして、ベスト4は、関東、九州、近畿、中国それぞれ1名。

決勝は、第1シードの松田美咲③と地元優勝を目指す、第6シード細木咲良②の対戦になりました。松田のスピンの良くかかったボールと細木のネットすれすれの高さを通るボールのラリーの応酬で、試合の流れは一進一退。ファーストセット激戦の末、75で細木が取り、セカンドセットへ。セカンドセットもファーストセットと同じラリーの応酬。しかし、セカンドセット後半になって、松田のストロークミスが多くなり、75で細木が取り、地元島根県での初優勝に輝きました。



#### 〈 個人戦・ダブルス 〉

男子ベスト4は、次の選手。

今村昌倫③・小清水拓生③（大阪・清風）、田中優之介③・田中隆輔③（埼玉・秀明英光）、大野翼③・金子拓矢③（兵庫・相生学院）、大島立暉③・菊地裕太②（兵庫・相生学院）。

決勝は、第1シード今村昌倫③・小清水拓生③（大阪・清風）対第2シード大島立暉③・菊地裕太②（兵庫・相生学院）の近畿勢同士の対戦になりました。ファーストセットはお互いにサービスキープで譲らず、試合が動いたのは55から、サービスをブレイクして75で大島・菊地が取り、セカンドセットへ。ファーストセットを取って勢いに乗る大島・菊地が62でセカンドセットを取り、優勝。団体戦に続いて二冠を決めました。

女子ベスト4は、次の選手。

富永まどか②・前川真里奈③（静岡・静岡市立）、米原さくら③・浮田侑奈②（埼玉・秀明英光）、浦上喜帆③・末野聡子②（兵庫・芦屋学園）、下地奈緒③・我那覇真子②（沖縄・沖縄尚学）。

決勝は、お互いにノーシードから勝ち上がってきた米原さくら③・浮田侑奈②（埼玉・秀明英光）対下地奈緒③・我那覇真子②（沖縄・沖縄尚学）の対戦となりました。大接戦のファーストセットは6-4で下地・我那覇が取り、セカンドセットへ。セカンドセットは米原・浮田5-3でファイナル勝負になるかと思われましたが、そこから、下地・我那覇が5-5に追いつき、逆転、7-5でセカンドセットを取り、優勝を決めました。沖縄尚学は昨年のリュウ理沙マリーさんに続いて、2年連続の優勝。そして、下地さんは今大会、団体戦・個人戦を通して、シングルス準決勝で松田美咲③（埼玉・浦和学院）に敗れた1試合以外全勝、7日間毎日朝から晩までコートに入って試合を行っていました。今大会のMVPに値する選手として紹介させていただきます。



〈 おわりに 〉

福岡（博多の森）→東京（有明テニスの森）→大阪（マリンパーク北村）と大都市でのインターハイが続き、今年は島根（松江市宮庭球場）でのインターハイ開催。毎年、団体戦が終わって、個人戦が進むにつれて観客動員数が減って行くというテニス独特の形ですが、今年は反対にどんどん増えて行きました。個人戦最終日、月曜日だというのに今回の最高の観客動員数、そして何台ものテレビカメラ、その中で地元島根県開星高校2年の細木咲良さんが女子シングルの決勝戦に残り、見事に優勝を決めました。やはり、地元の選手が活躍すると大会自体がすごく盛り上がり行くのがとても感じられました。それと同時に地元の役員の先生方や補助員の高校生達も細木選手はコートの中で私達はそれ以外のところで頑張るんだという思いがひしひしと伝わって来ました。『2016 情熱疾走、中国総体、美しく咲け、君の笑顔と努力の華』このスローガンの通りのとても素晴らしい大会だったように感じられました。

大会に関係して頂いた方々への感謝の意を表します。そして、来年は、福島インターハイ。明日からは、はばたけ世界へ南東北総体「会津」でのインターハイへの戦いが始まります。そのような高校生達の戦いに成ることを願って、レポートを閉じることに致します。



